

イ 世帯構成別に見た経済状況等

(ア) 収入状況

小学校5年生・中学校2年生のいる世帯、5歳児のいる世帯とも、ふたり親世帯、父子世帯、母子世帯の順に、最も割合の多い年収の階層が低くなっており、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯の場合、ふたり親世帯は500万円～600万円未満の世帯が最も多いのに対し、父子世帯は300万円～400万円未満、母子世帯は200万円未満の世帯が最も多くなっています(図7-1、図7-2)。

(イ) 家計の状況

小学校5年生・中学校2年生のいる世帯、5歳児のいる世帯とも、ふたり親世帯、父子世帯、母子世帯の順に、「貯蓄ができています」と回答する割合が低くなっています(図8-1、図8-2)。

(ウ) 困窮度

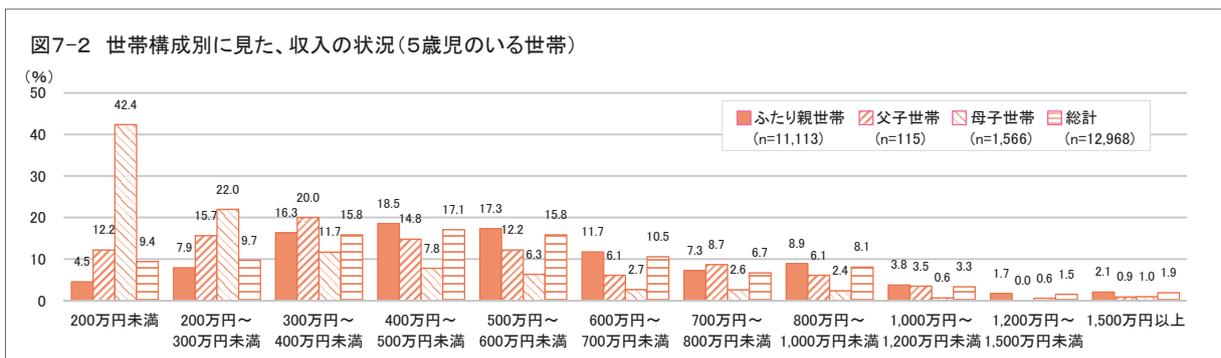
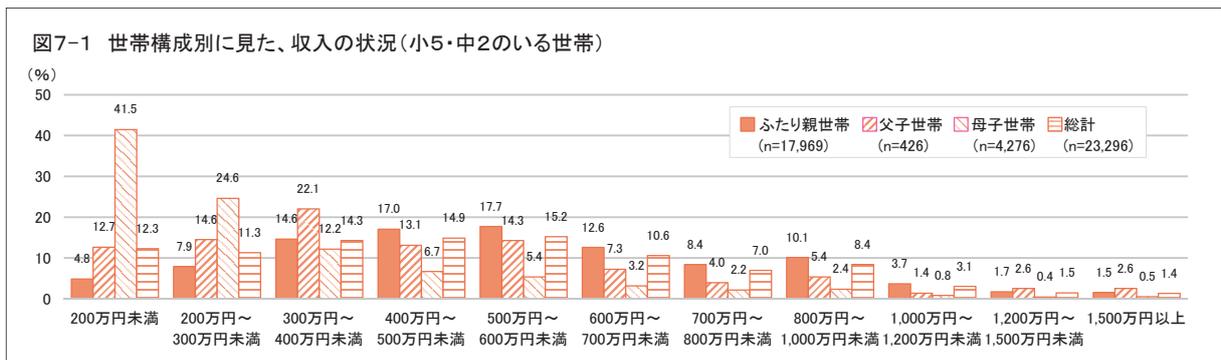
小学校5年生・中学校2年生のいる世帯、5歳児のいる世帯とも、ふたり親世帯、父子世帯、母子世帯の順に、困窮度Ⅰの割合(相対的貧困率)が高くなり、特に、母子世帯においては、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯では42.9%、5歳児のいる世帯では43.6%となっています(図9-1、図9-2)。

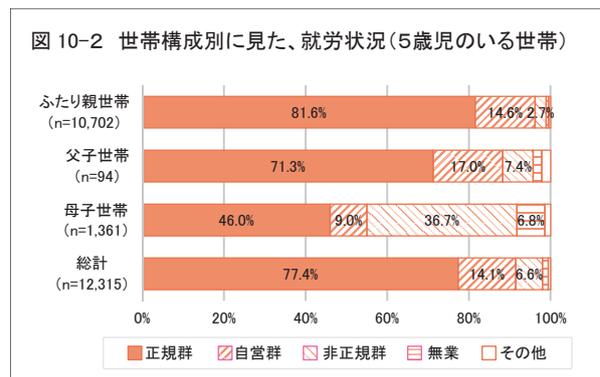
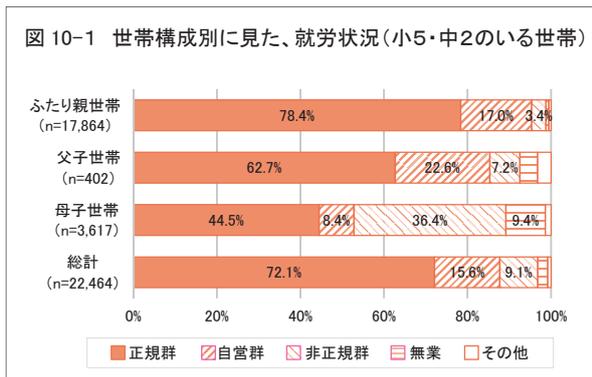
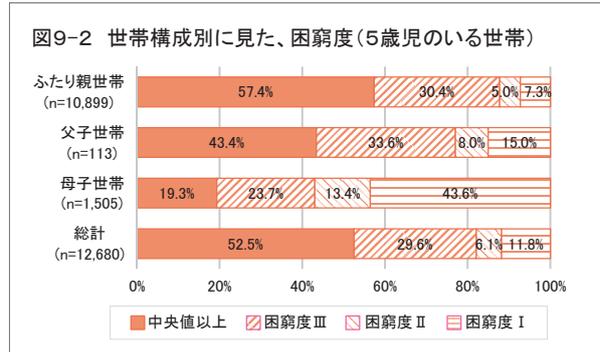
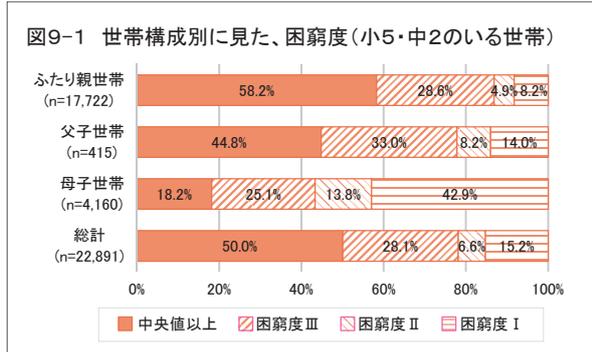
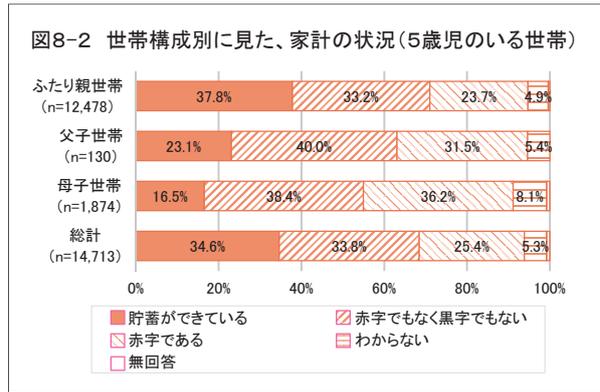
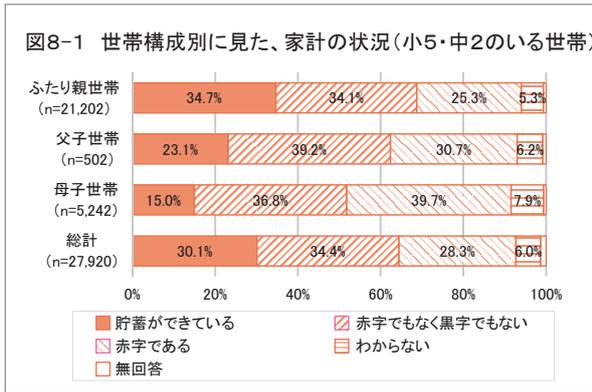
(エ) 就労状況

小学校5年生・中学校2年生のいる世帯、5歳児のいる世帯とも、ふたり親世帯、父子世帯、母子世帯の順に、正規群の割合が低くなっています(図10-1、図10-2)。

(オ) 就労状況別に見た家計の状況

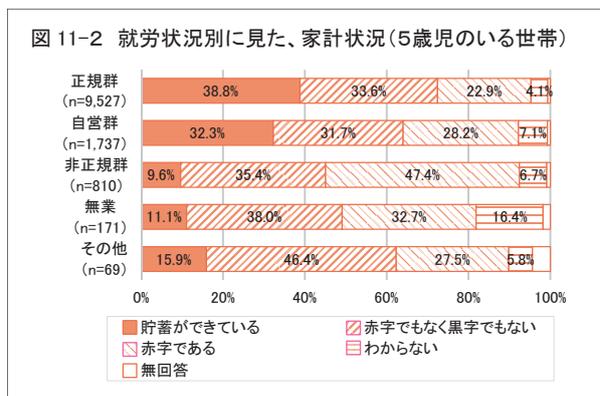
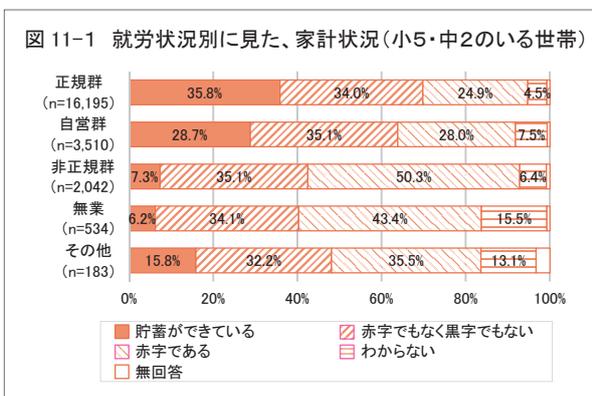
家計の状況は雇用形態によっても違いが見られ、貯蓄ができていますと回答した割合は、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯、5歳児のいる世帯とも、正規群に比べ非正規群が低くなっています(図11-1、図11-2)。





※項目の分類の考え方は次のとおり。

- 正規群：父母あるいは主たる生計者に「常勤・正規職員」が含まれている。
- 自営群：正規群以外で、父母あるいは主たる生計者に「自営業・家業」が含まれている。
- 非正規群：正規群・自営群以外で、父母あるいは主たる生計者に「パートまたはアルバイト、非正規職員」が含まれている。
- 無業：正規群・自営群・非正規群以外で、誰も働いていない。
- その他：正規群、自営群、非正規群、無業以外。



ウ 初めて親となった年齢別に見た母親の状況

(ア) 困窮度

小学校5年生・中学校2年生のいる世帯、5歳児のいる世帯とも、10代群が最も困窮度Ⅰの割合(相対的貧困率)が高くなり、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯では37.6%、5歳児のいる世帯では35.0%となっています(図12-1、図12-2)。

(イ) 最終学歴

小学校5年生・中学校2年生のいる世帯、5歳児のいる世帯とも、10代で初めて親となった群で中学校卒業と高等学校中途退学の割合が特に高く、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯では50.3%、5歳児のいる世帯では52.7%と、ともに半数を超えています(図13-1、図13-2)。

(ウ) 就労状況

小学校5年生・中学校2年生のいる世帯、5歳児のいる世帯とも、若年で親になった世帯の方が、正規群の割合が低くなっています(図14-1、図14-2)。

図12-1 初めて親となった年齢別に見た、困窮度  
(小5・中2のいる世帯)(母親が回答者)

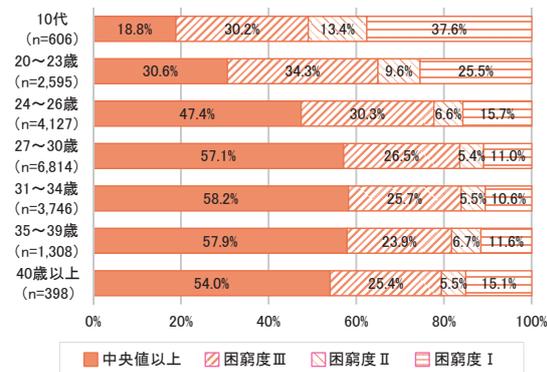


図12-2 初めて親となった年齢別に見た、困窮度  
(5歳児のいる世帯)(母親が回答者)

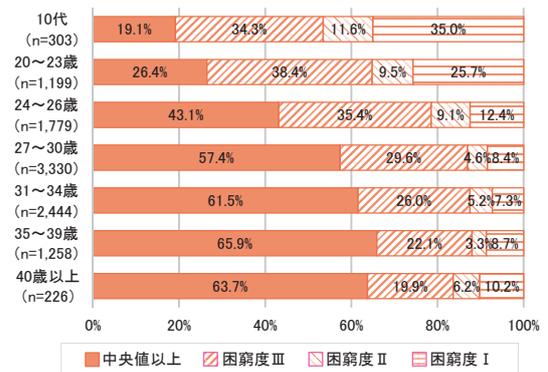


図13-1 初めて親となった年齢別に見た、母親の最終学歴  
(小5・中2のいる世帯)(母親が回答者)

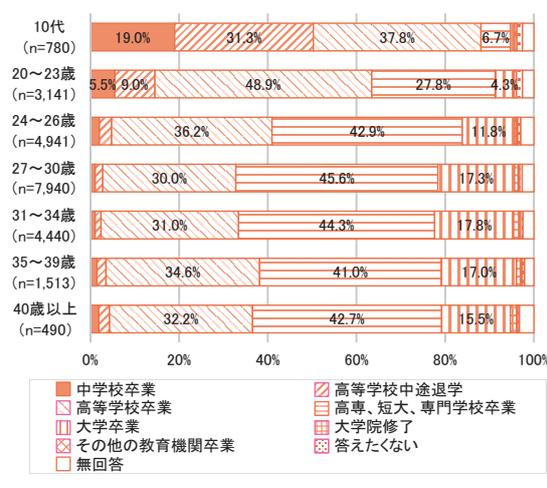


図13-2 初めて親となった年齢別に見た、母親の最終学歴  
(5歳児のいる世帯)(母親が回答者)

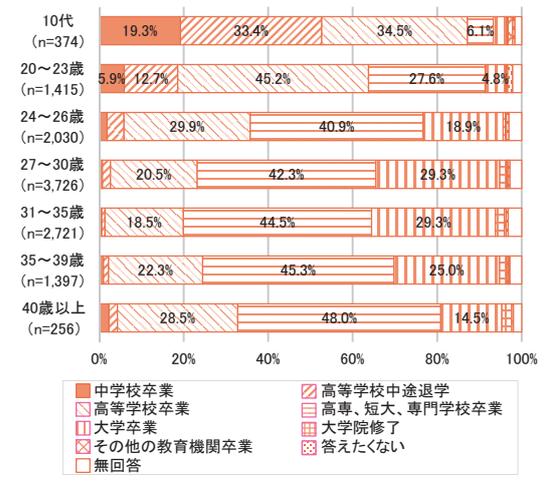


図 14-1 初めて親となった年齢別に見た、就労状況  
(小5・中2のいる世帯)(母親が回答者)

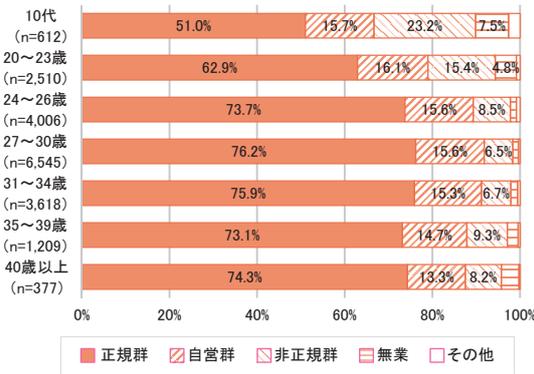
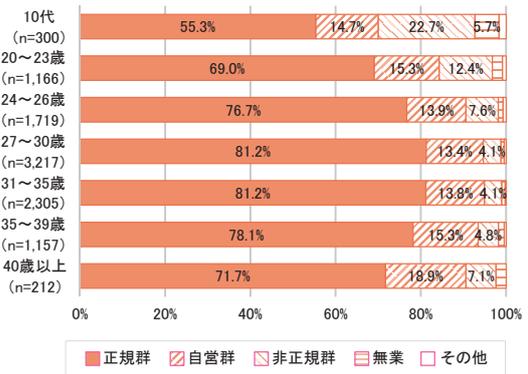


図 14-2 初めて親となった年齢別に見た、就労状況  
(5歳児のいる世帯)(母親が回答者)



エ 困窮度別に見た制度の受給状況

(ア) 就学援助

困窮度が高くなるにつれて受給率が高くなっており、困窮度 I 群では 64.4%が受給しています。しかし、困窮度 I 群でも受けたことはない割合が 13.4%あります(図 15)。

(イ) 児童扶養手当

小学校5年生・中学校2年生のいるひとり親世帯、5歳児のいるひとり親世帯とも、困窮度が高くなるにつれ受給率が高くなっており、困窮度 I 群では、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯では 76.2%、5歳児のいる世帯では 71.0%が受給しています。しかし、困窮度 I 群でも受けたことはない割合が 10%程度あります(図 16-1、図 16-2)。

(ウ) 養育費の受給状況

公的な制度ではありませんが、小学校5年生・中学校2年生のいるひとり親世帯、5歳児のいるひとり親世帯とも、困窮度にかかわらず、受給している割合は 10%程度にとどまっています。(図 17-1、図 17-2)

図 15 困窮度別に見た、就学援助の受給状況  
(小5・中2のいる世帯)

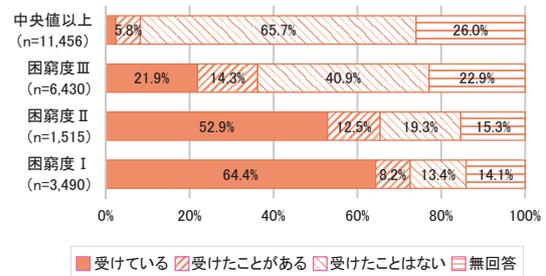


図 16-1 困窮度別に見た、児童扶養手当受給状況  
(小5・中2のいる世帯)(ひとり親世帯)

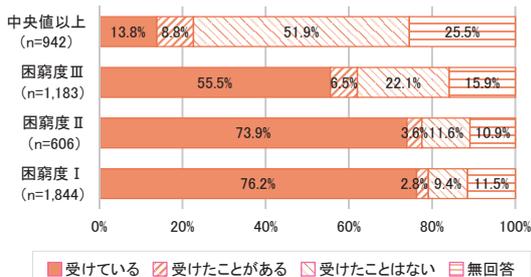
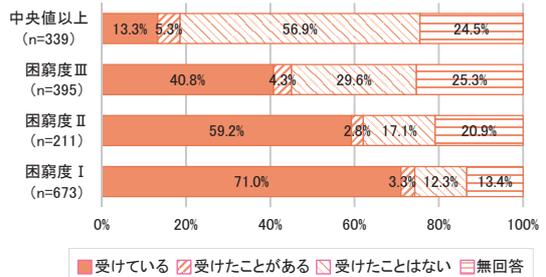
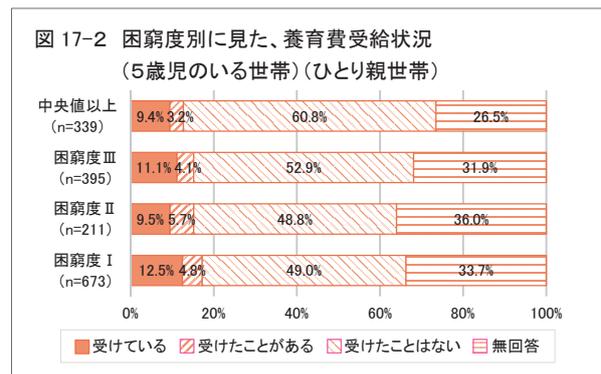
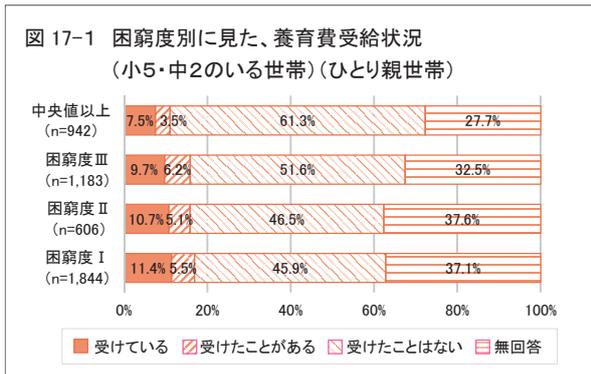


図 16-2 困窮度別に見た、児童扶養手当受給状況  
(5歳児のいる世帯)(ひとり親世帯)





(4) ヒューマンキャピタルの欠如の状況

ア 困窮度別に見た生活習慣の状況

(ア) 朝食の頻度

小学校5年生・中学校2年生のいる世帯においては、困窮度が高くなるにつれ、「毎日またはほとんど毎日」と回答する割合が低くなり、5歳児のいる世帯においては、「必ず食べる」と回答する割合が低くなっています(図 18-1、図 18-2)。

(イ) おうちの大人と朝食を食べるか

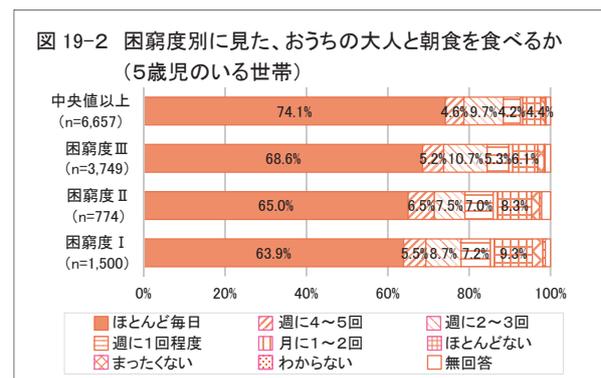
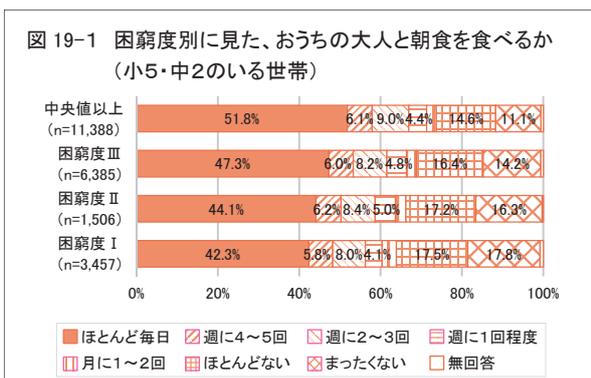
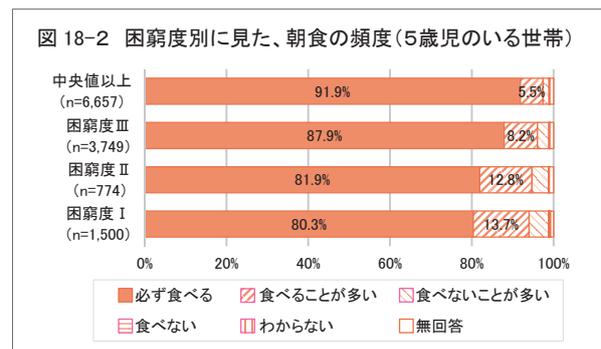
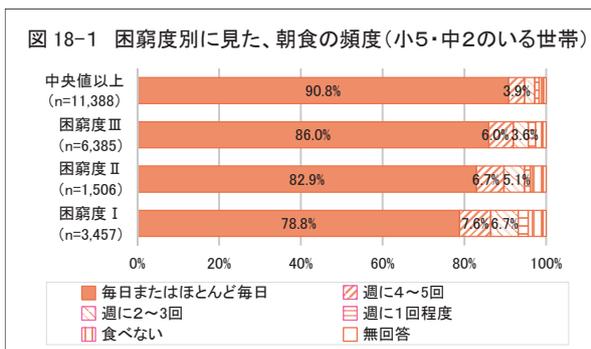
小学校5年生・中学校2年生のいる世帯、5歳児のいる世帯とも、困窮度が高くなるにつれ、「ほとんど毎日」と回答する割合が低くなっています(図 19-1、図 19-2)。

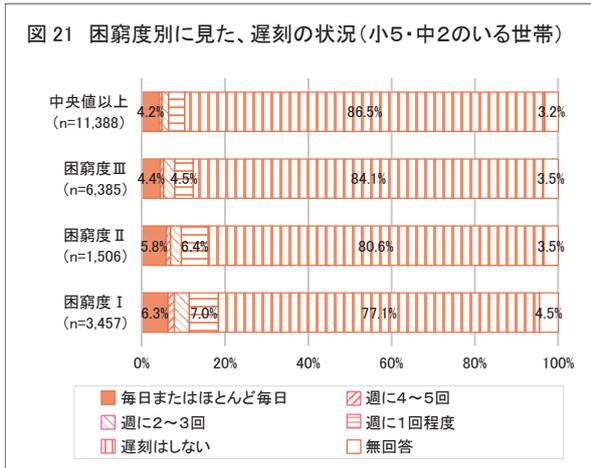
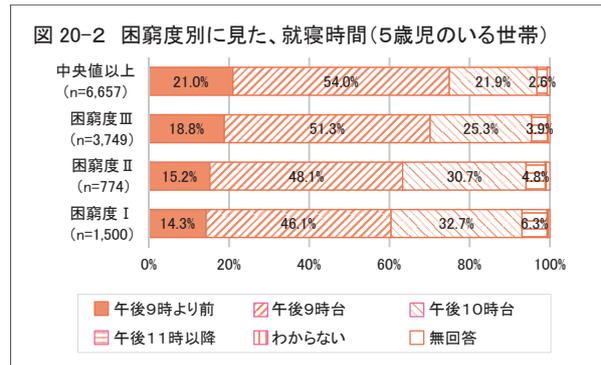
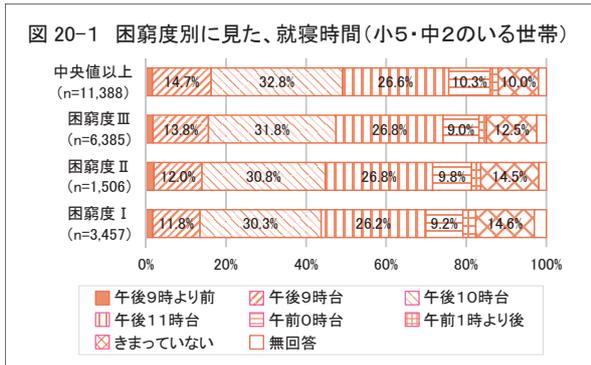
(ウ) 就寝時間

小学校5年生・中学校2年生のいる世帯、5歳児のいる世帯とも、困窮度が高くなるにつれ、就寝時間が遅くなる傾向が見られます(図 20-1、図 20-2)。

(エ) 学校への遅刻の状況

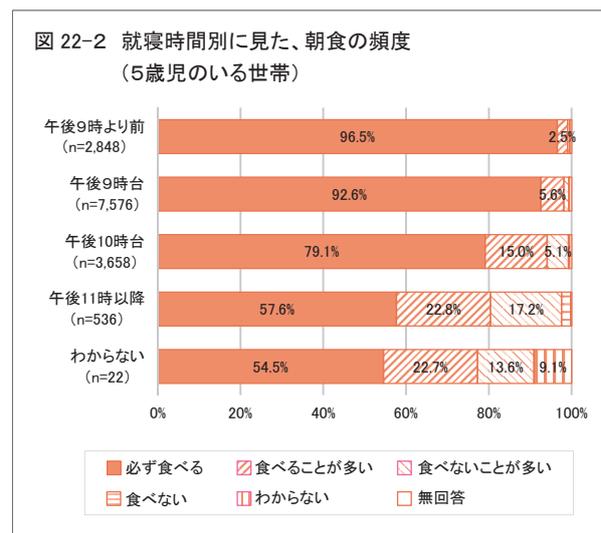
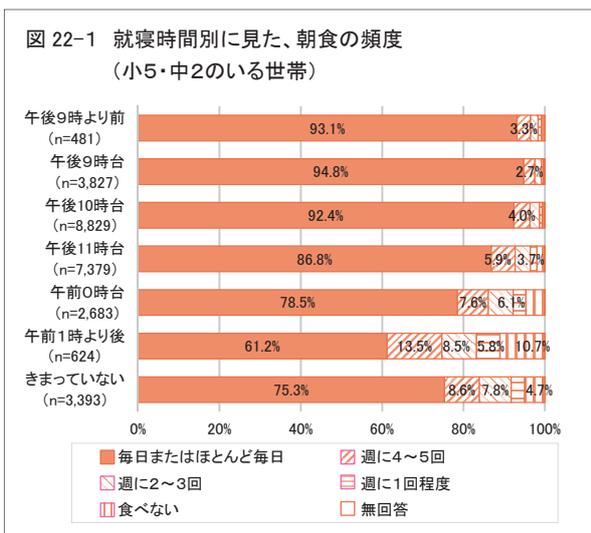
困窮度が高くなるにつれ、「遅刻はしない」と回答する割合が低くなっています(図 21)。





イ 就寝状況別に見た朝食の頻度

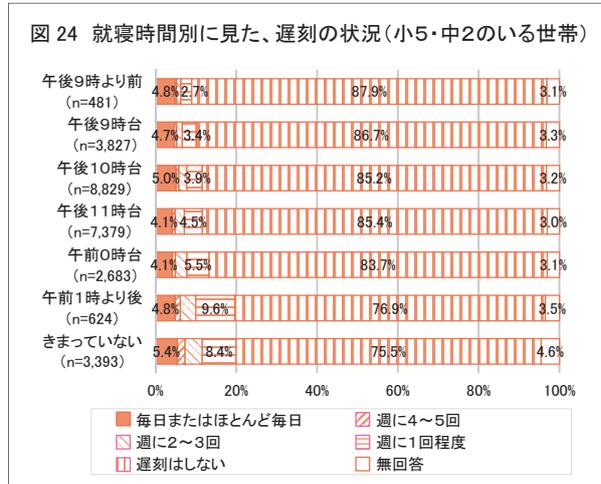
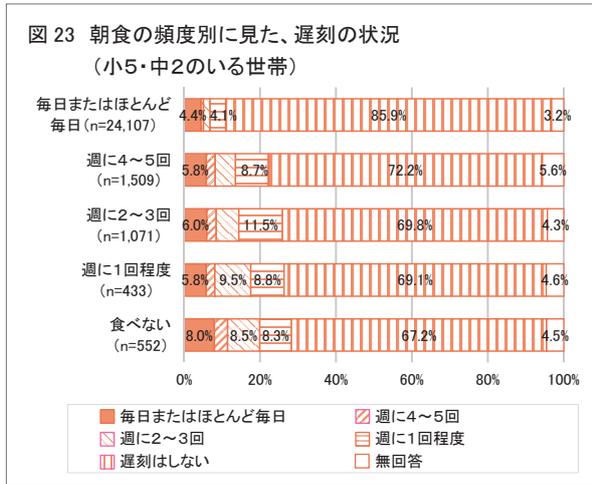
小学校5年生・中学校2年生のいる世帯においては、就寝時間が遅くなるほど、「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べる割合が低くなっており、5歳児のいる世帯においては、就寝時間が遅くなるほど、「必ず食べる」割合が低くなっています(図 22-1、図 22-2)。



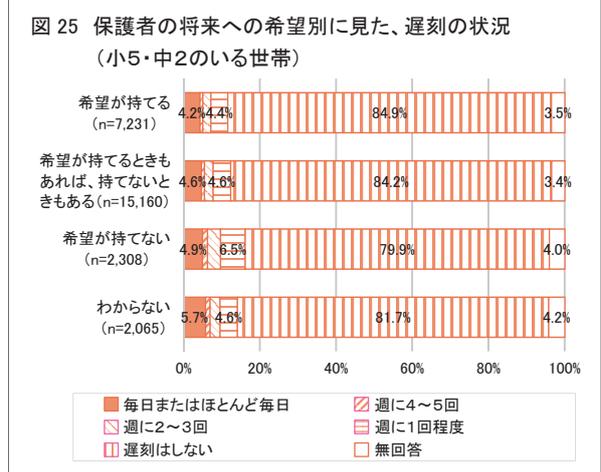
ウ 朝食の頻度別、就寝時間別に見た遅刻の状況

困窮度が高くなるにつれ、朝食や睡眠に関する望ましい生活習慣が定着していない割合が高くなっていますが、朝食の頻度別、就寝時間別に遅刻の状況を見ると、望ましい生活習慣が定着していない方が、「遅刻はしない」と回答する割合が低くなっており、朝食を「毎日またはほとんど毎日」食べ

る場合、「遅刻はしない」と回答する割合は85.9%であるのに対し、朝食を「食べない」場合は67.2%となっています(図23)。また、就寝時間が「午後9時台」の場合、「遅刻はしない」と回答する割合は86.7%であるのに対し、「午前1時より後」の場合は76.9%となっています(図24)。

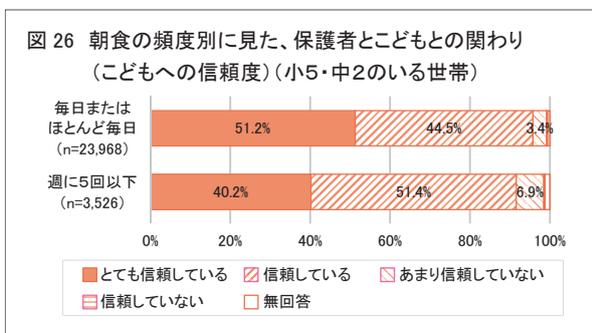


エ 保護者の将来への希望別に見た遅刻の状況  
「希望が持てる」場合は「遅刻はしない」と回答する割合は84.9%であるのに対し、「希望が持てない」場合は79.9%となっています(図25)。



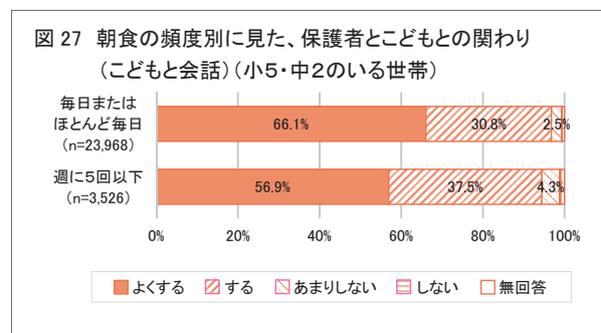
オ 朝食の頻度別に見た保護者と子どもとの関わり  
(ア)子どもへの信頼度

「毎日またはほとんど毎日」群の方が、子どもを「とても信頼している」と回答する割合が高くなっています(図26)。



(イ)子どもと会話

「毎日またはほとんど毎日」群の方が、子どもと会話を「よくする」と回答する割合が高くなっています(図27)。



カ 5歳児におけるしつけの状況

(ア)困窮度別

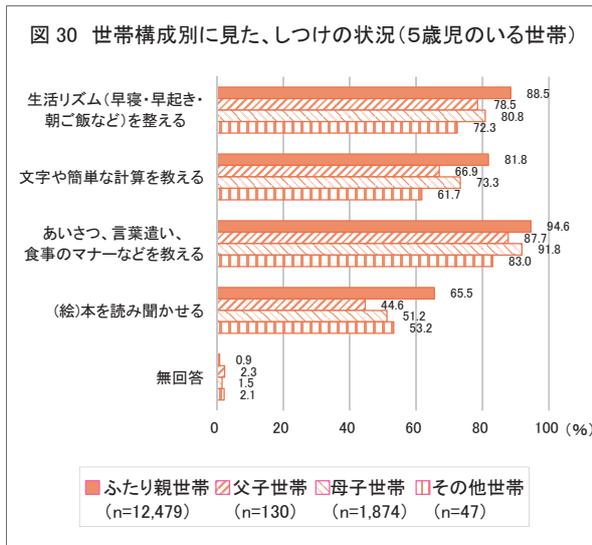
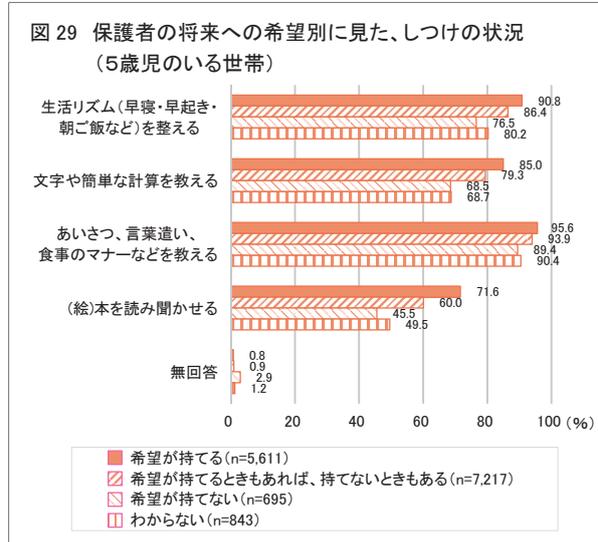
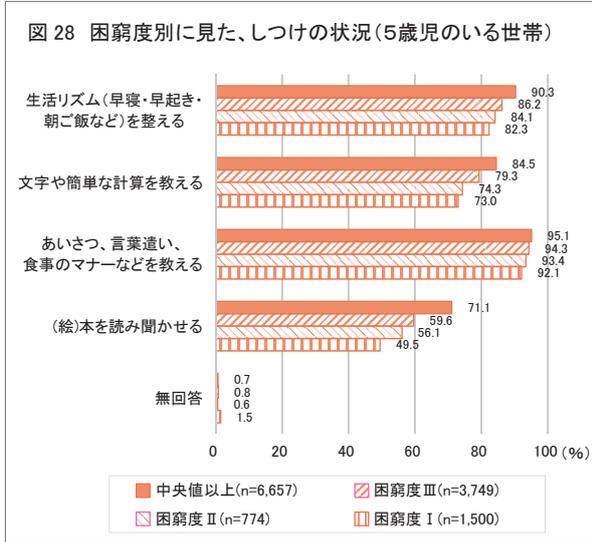
困窮度が高くなるにつれて、しつけをしている割合が低くなっています(図28)。

(イ) 保護者の将来への希望別

希望が持てないほど、しつけをしている割合が低くなっています(図29)。

(ウ) 世帯構成別

ふたり親世帯、母子世帯、父子世帯の順にしつけをしている割合が低くなっています(図30)。



キ 心身の自覚症状

(ア) 困窮度別

中央値以上群と困窮度I群との間で差の倍率が大きい項目に着目して見ると、小学校5年生・中学校2年生の保護者については、「ねむれない(2.3倍)」「不安な気持ちになる(2.0倍)」「よくかぜをひく(1.9倍)」の順に大きく(図31-1)、5歳児の保護者については、「ものを見づらい(2.2倍)」「ねむれない(2.2倍)」「歯がいたい(2.0倍)」の順に大きくなっています(図31-2)。

子どもについては、保護者の場合ほどには、中央値以上群と困窮度I群との間で差の倍率が大きい項目はありませんが、「とくに気になるところはない」について、中央値以上群が25.9%であるのに対し、困窮度I群が20.3%となっています。また、「イライラする」「やる気が起きない」については困窮度にかかわらず、およそ4人に1人が該当する状況になっています(図31-3)。

(イ) 世帯における経済的な理由による経験の該当数別

該当なし群と7個以上に該当群との間で差の倍率が大きい項目に着目して見ると、小学校5年生・中学校2年生の保護者については、「聞こえにくい(3.8倍)」「歯がいたい(3.8倍)」「不安な気持ちになる(3.7倍)」の順に大きく(図32-1)、5歳児の保護者については、「歯がいたい(4.4倍)」「聞こえにくい(4.4倍)」「ねむれない(3.5倍)」の順に大きくなっています(図32-2)。

こどもについては、「聞こえにくい(1.6倍)」「よくかぜをひく(1.5倍)」「歯がいたい(1.5倍)」の順に大きくなっています(図 32-3)。

(ウ) 世帯構成別

ふたり親世帯と母子世帯又は父子世帯のいずれかとの間で差の倍率が大きい項目に着目して見ると、小学校5年生・中学校2年生の保護者については、「ねむれない(2.1倍)」「よくかぜをひく(1.6倍)」「不安な気持ちになる(1.6倍)」の順に大きく(図 33-1)、5歳児の保護者については、「聞こえにくい(2.7倍)」「ねむれない(2.2倍)」「ものを見づらい(1.8倍)」の順に大きくなっています(図 33-2)。

こどもについては、「聞こえにくい(1.4倍)」「よくかぜをひく(1.3倍)」「歯がいたい(1.3倍)」の順に大きくなっています(図 33-3)。

(エ) 初めて親となった年齢別

小学校5年生・中学校2年生の保護者、5歳児の保護者とも、「ねむれない」「よく頭がいたくなる」「不安な気持ちになる」「まわりが気になる」「やる気が起きない」「イライラする」といった項目において、10代群は他の群に比べて顕著に割合が高くなっています(図 34-1、図 34-2)。

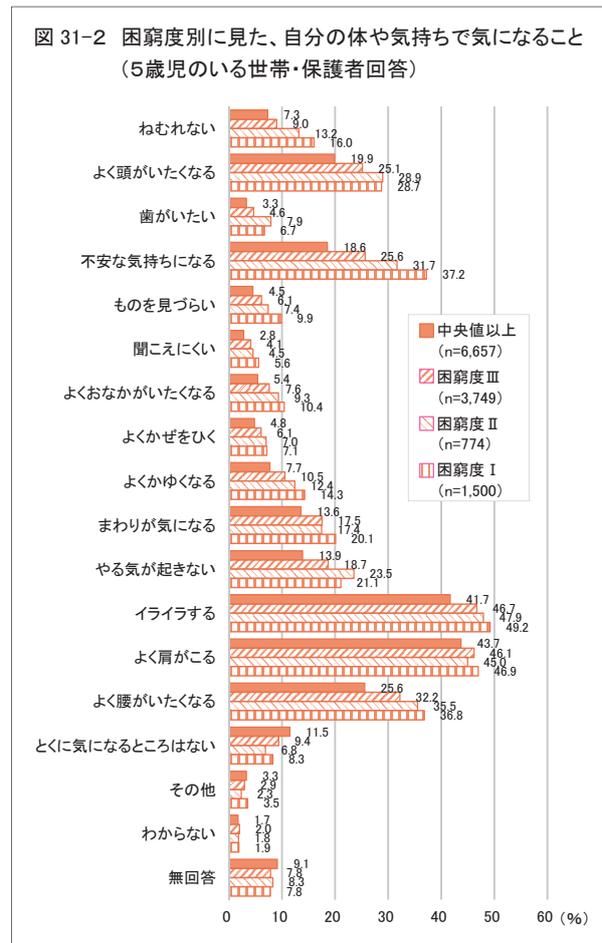
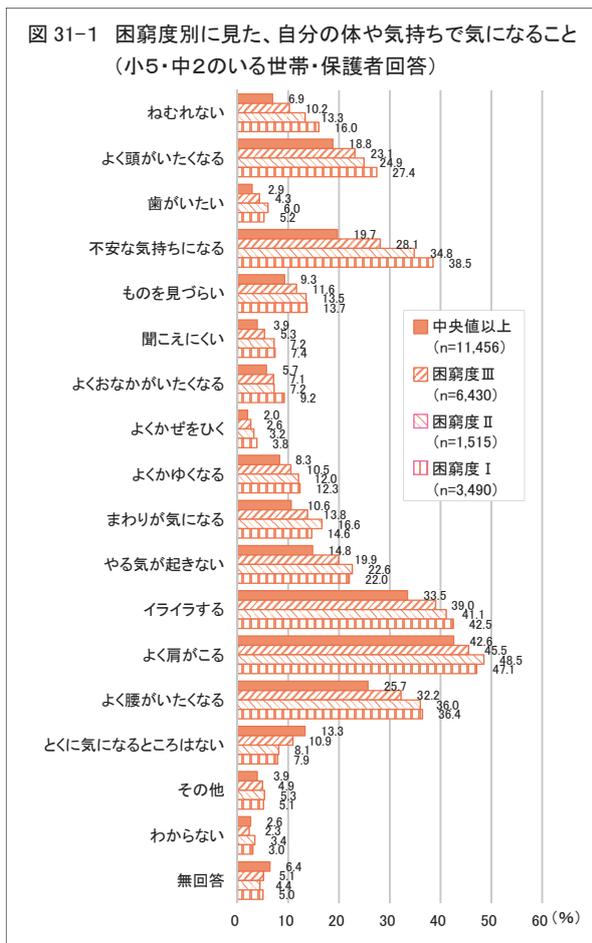


図 31-3 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること (小5・中2のいる世帯・こども回答)

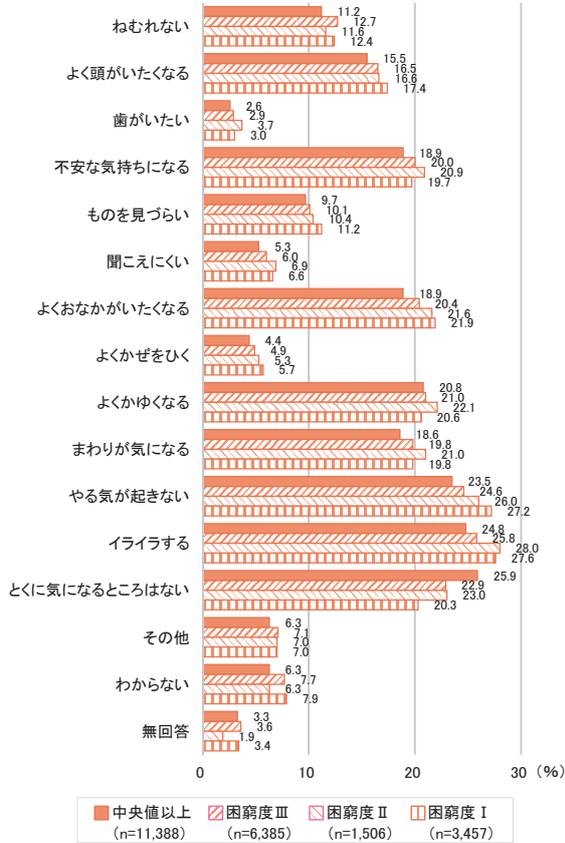


図 32-1 世帯における経済的な理由による経験 (図4-1参照) 該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること (小5・中2のいる世帯・保護者回答)

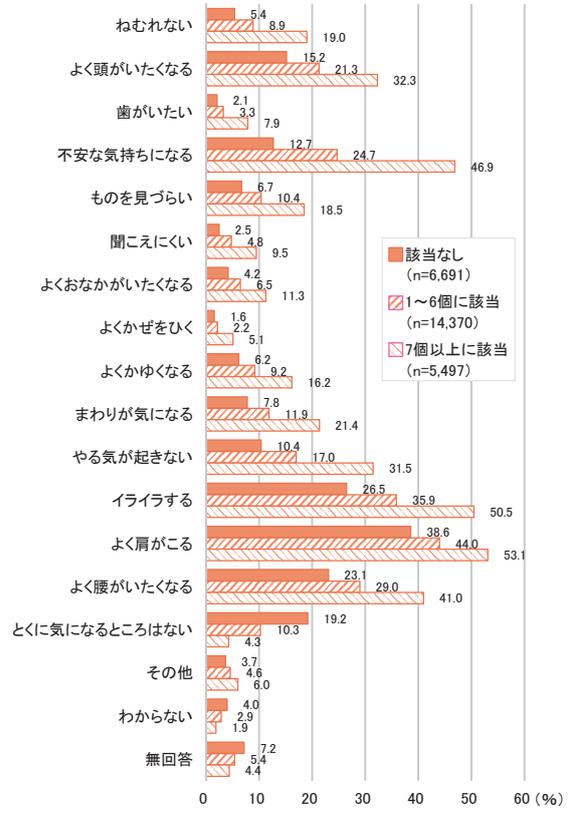


図 32-2 世帯における経済的な理由による経験 (図4-1参照) 該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること (5歳児のいる世帯・保護者回答)

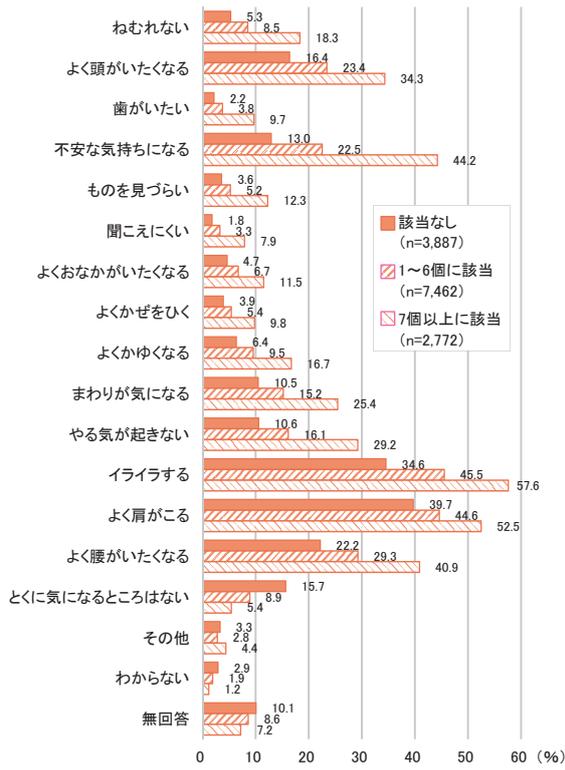
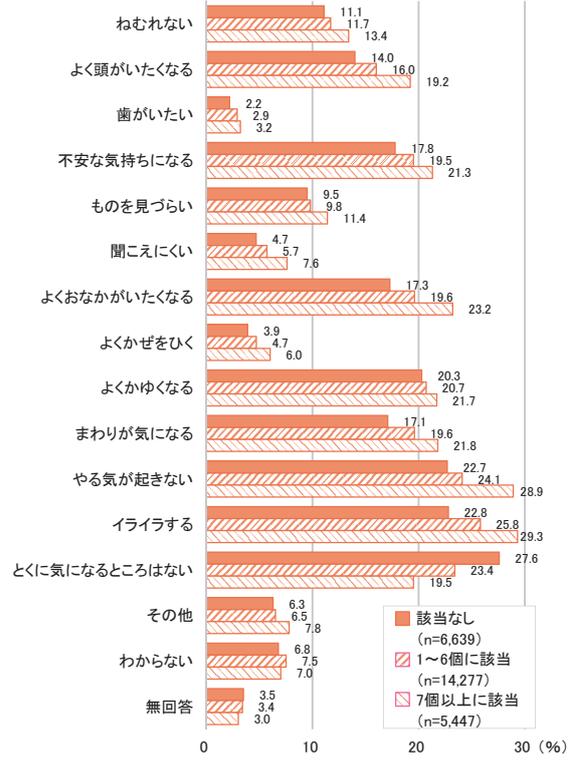


図 32-3 世帯における経済的な理由による経験 (図4-1参照) 該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること (小5・中2のいる世帯・こども回答)



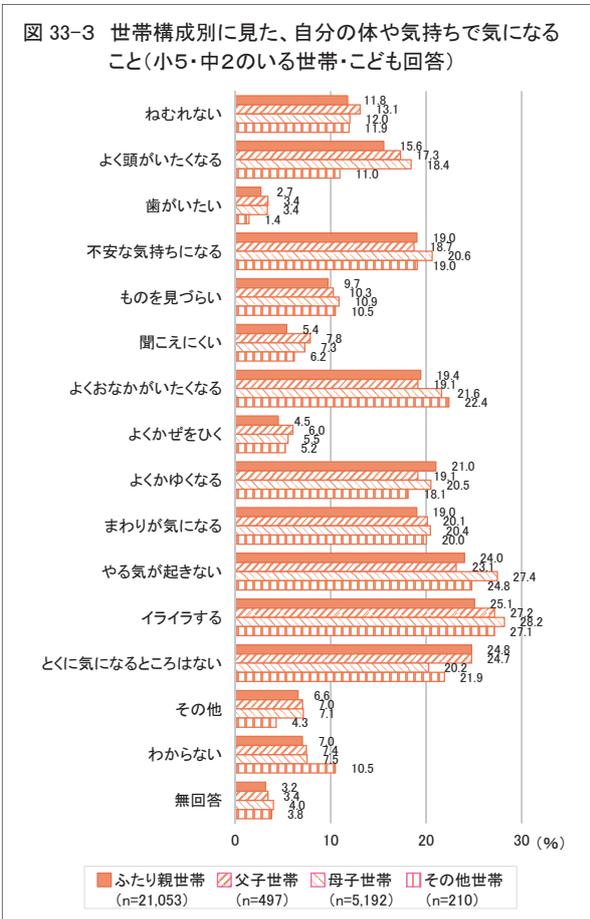
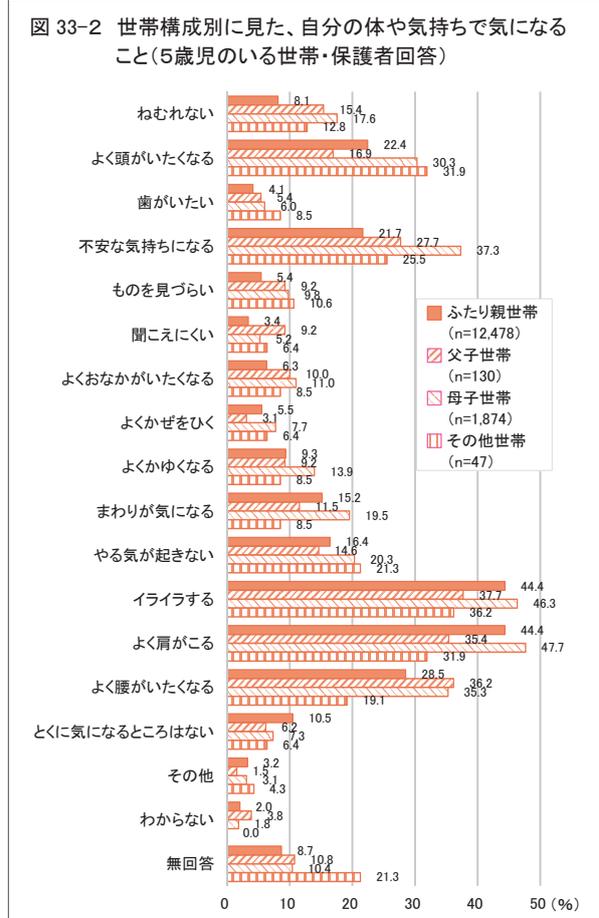
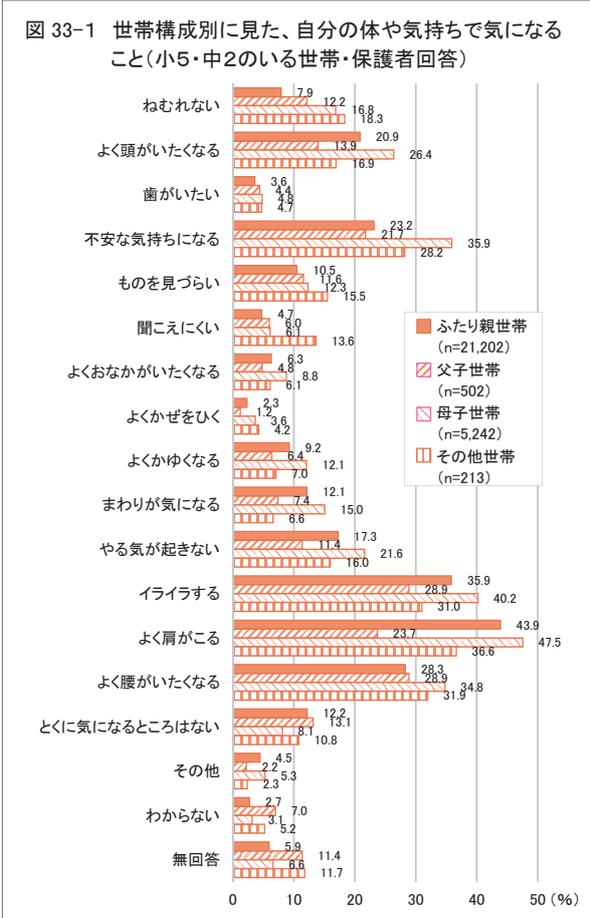


図 34-1 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること(小5・中2のいる世帯・保護者回答)(母親が回答者)

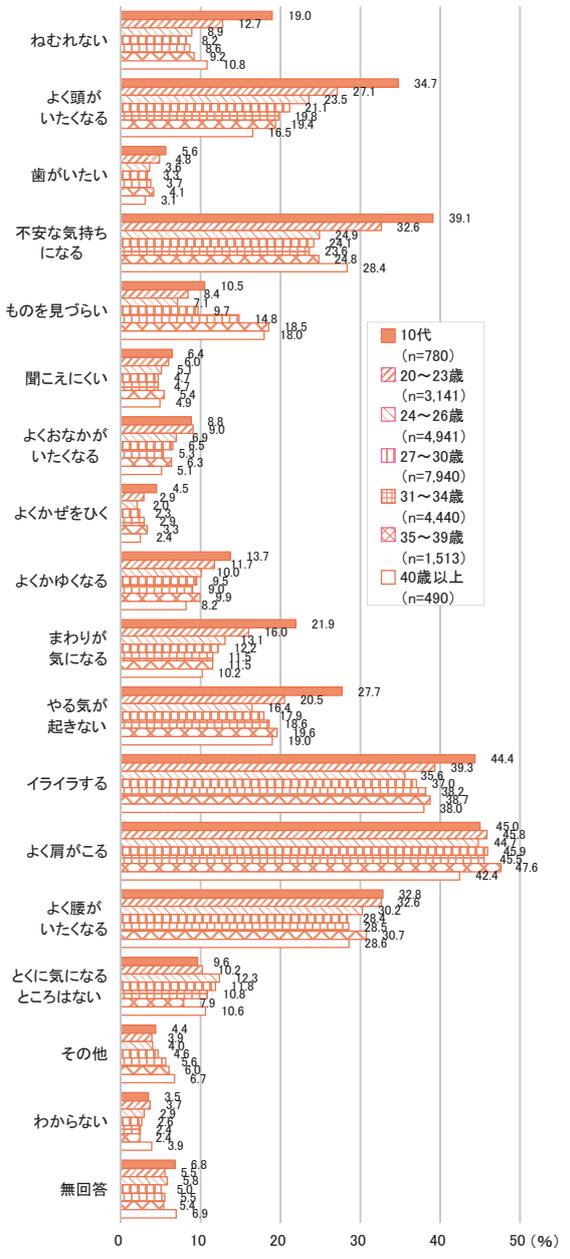
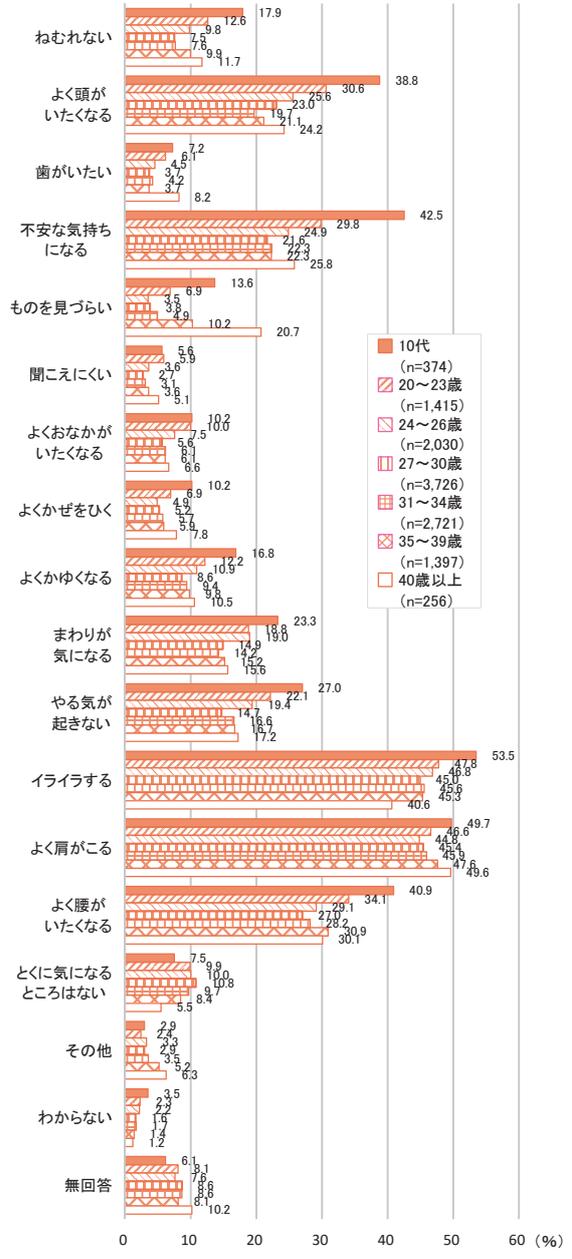


図 34-2 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること(5歳児のいる世帯・保護者回答)(母親が回答者)



ク 困窮度別に見た保護者の心の状態

(ア) 生活を楽しんでいる

困窮度が高くなるにつれ肯定的な回答の割合が低くなっており、生活を「とても楽しんでいる」「楽しんでいる」の合計の割合は、小学校5年生・中学校2年生の保護者では、中央値以上群の76.3%に対し困窮度 I 群は 59.5% (図 35-1)、5歳児の保護者では、中央値以上群の 81.3%に対し困窮度 I 群は 69.4% (図 35-2)となっています。

(イ) 将来に「希望が持てる」

将来に「希望が持てる」と回答する割合は、小学校5年生・中学校2年生の保護者では、中央値以上群の 33.8%に対し困窮度 I 群は 16.8% (図 36-1)、5歳児の保護者では、中央値以上群の

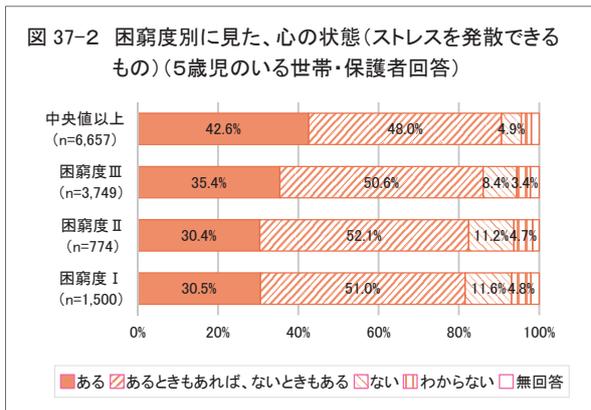
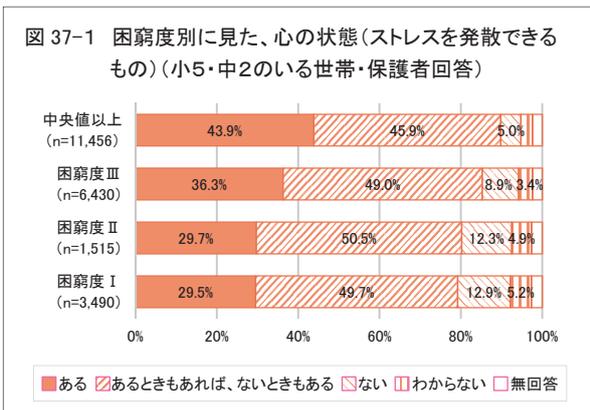
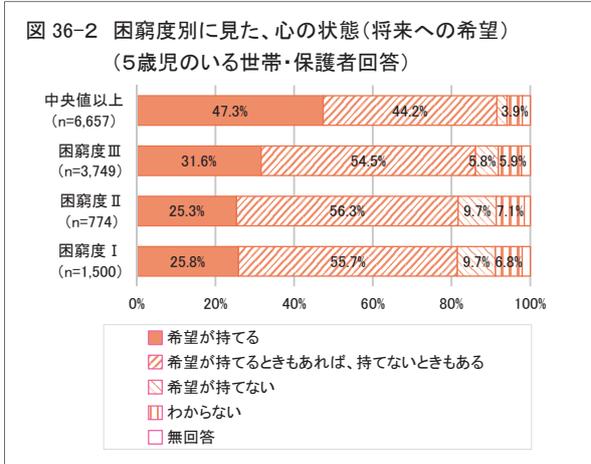
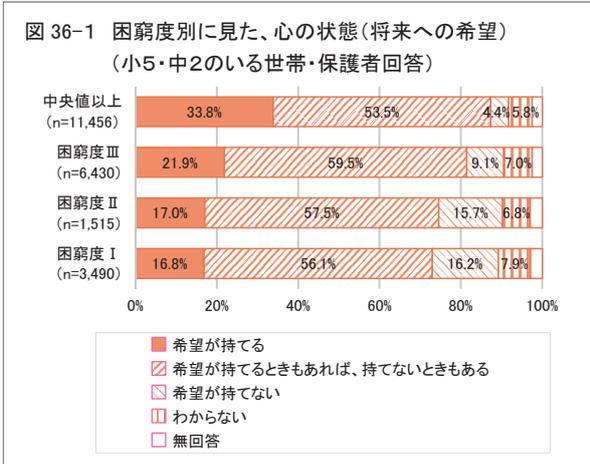
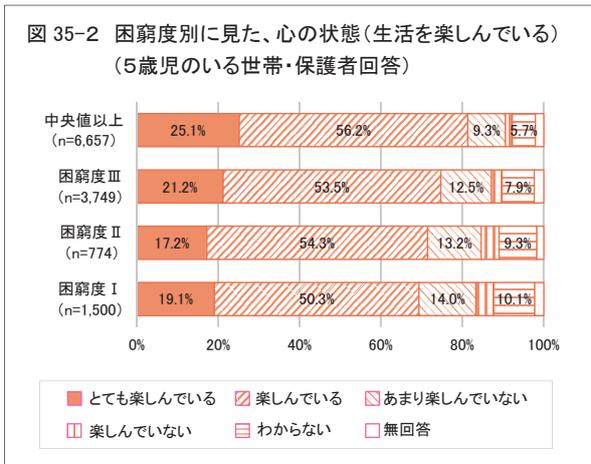
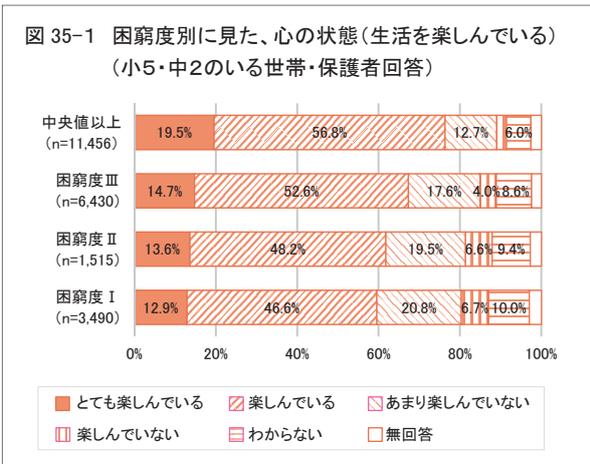
47.3%に対し困窮度 I 群は 25.8% (図 36-2)となっています。

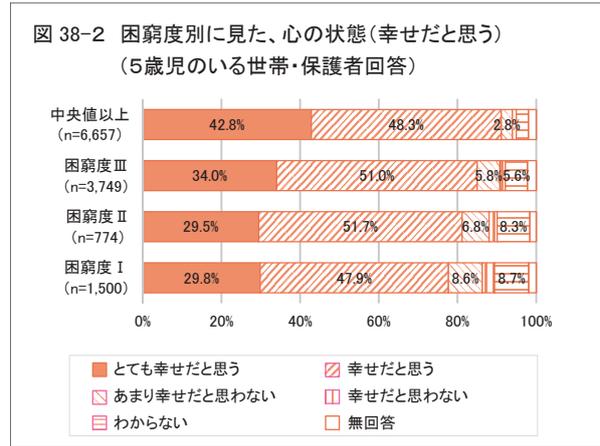
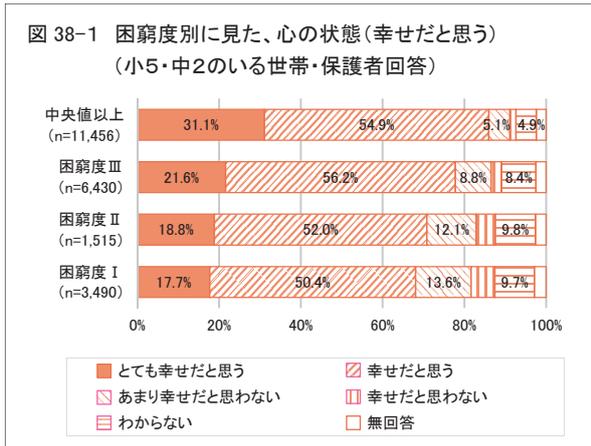
(ウ) ストレスを発散できるものが「ある」

ストレスを発散できるものが「ある」と回答する割合は、小学校5年生・中学校2年生の保護者では、中央値以上群の 43.9%に対し困窮度 I 群は 29.5% (図 37-1)、5歳児の保護者では、中央値以上群の 42.6%に対し困窮度 I 群は 30.5% (図 37-2)となっています。

(エ) 幸せだと思う

「とても幸せだと思う」「幸せだと思う」の合計の割合は、小学校5年生・中学校2年生の保護者では、中央値以上群の 86.0%に対し困窮度 I 群は 68.1% (図 38-1)、5歳児の保護者では、中央値以上群の 91.1%に対し困窮度 I 群は 77.7% (図 38-2)となっています。





ケ 困窮度別に見た学習の状況

(ア) 授業以外の勉強時間

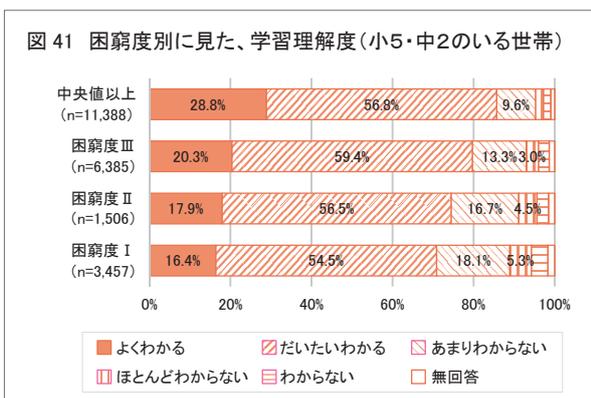
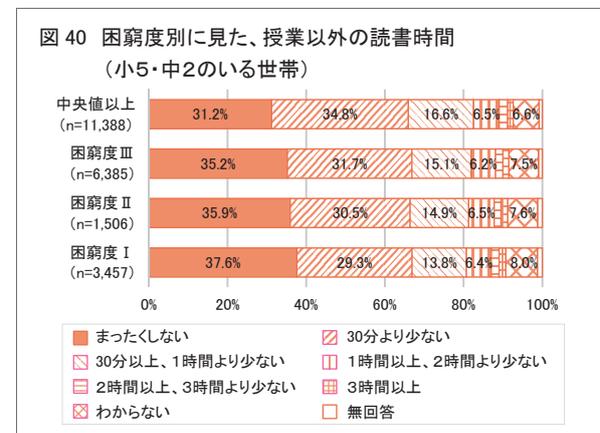
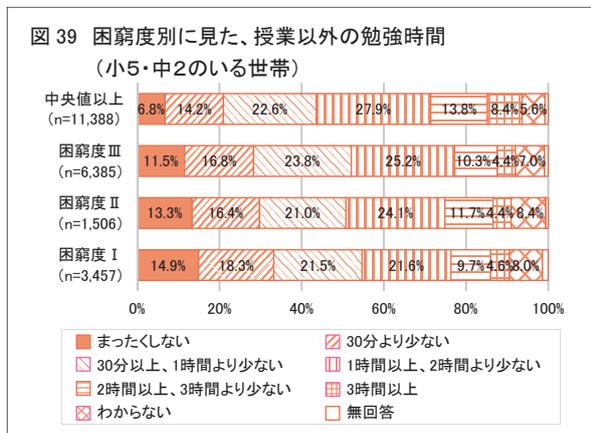
困窮度が高くなるにつれ、「まったくしない」と回答する割合が高くなり、中央値以上群では6.8%であるのに対し、困窮度Ⅰ群では14.9%となっています(図 39)。

(イ) 授業以外の読書時間

困窮度が高くなるにつれ、「まったくしない」と回答する割合が高くなり、中央値以上群では31.2%であるのに対し、困窮度Ⅰ群では37.6%となっています(図 40)。

(ウ) 学校の勉強

困窮度が高くなるにつれ「よくわかる」と回答する割合が低くなっており、中央値以上群では28.8%であるのに対し、困窮度Ⅰ群では16.4%となっています(図 41)。



コ 生活リズムと学習の状況

(ア) 授業以外の勉強時間

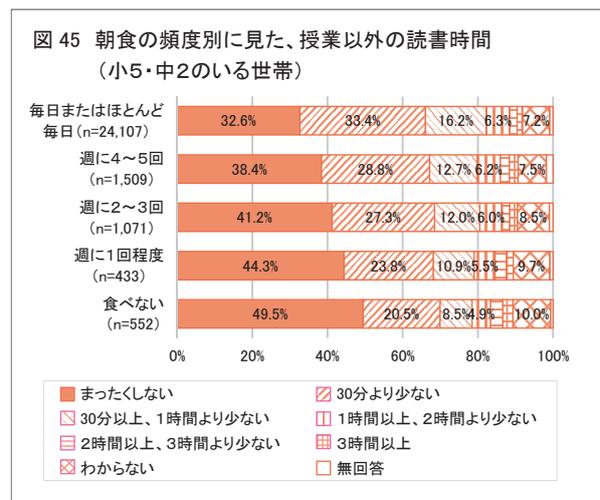
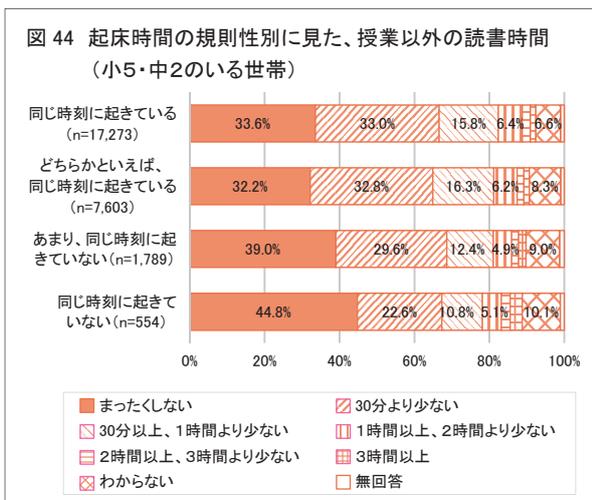
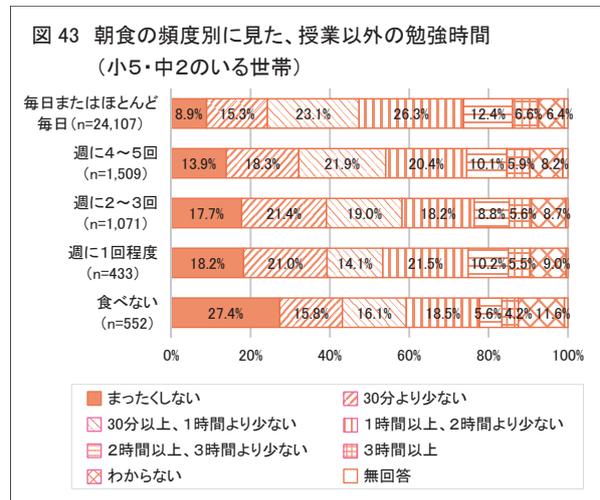
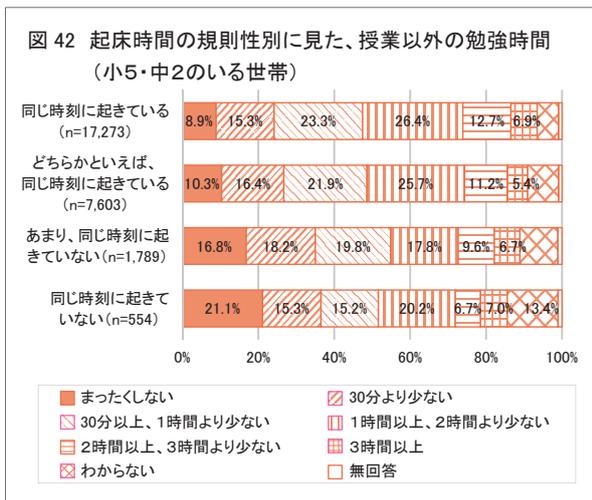
「まったくしない」と回答する割合は、同じ時刻に起きている群は 8.9%であるのに対し、同じ時刻に起きていない群では 21.1% (図 42)、毎日またはほとんど毎日朝食を食べている群は 8.9%であるのに対し、食べない群では 27.4% (図 43) となっています。

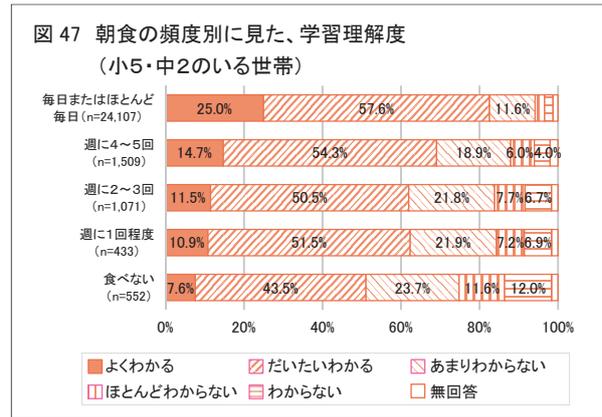
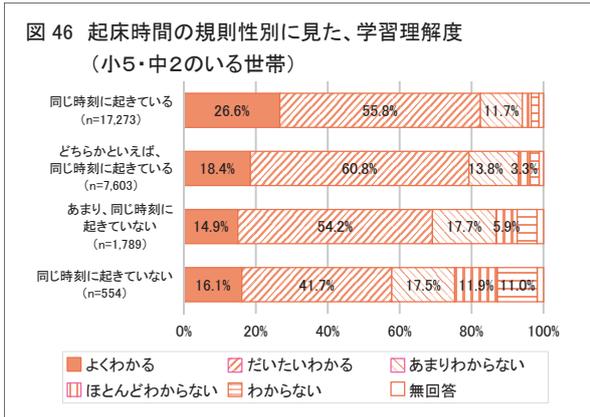
(イ) 授業以外の読書時間

「まったくしない」と回答する割合は、同じ時刻に起きている群は 33.6%であるのに対し、同じ時刻に起きていない群では 44.8% (図 44)、毎日またはほとんど毎日朝食を食べている群は 32.6%であるのに対し、食べない群では 49.5% (図 45) となっています。

(ウ) 学校の勉強

「よくわかる」「だいたいわかる」の割合の合計は、同じ時刻に起きている群は 82.4%であるのに対し、同じ時刻に起きていない群では 57.8% (図 46)、毎日またはほとんど毎日朝食を食べている群は 82.6%であるのに対し、食べない群では 51.1% (図 47) となっています。





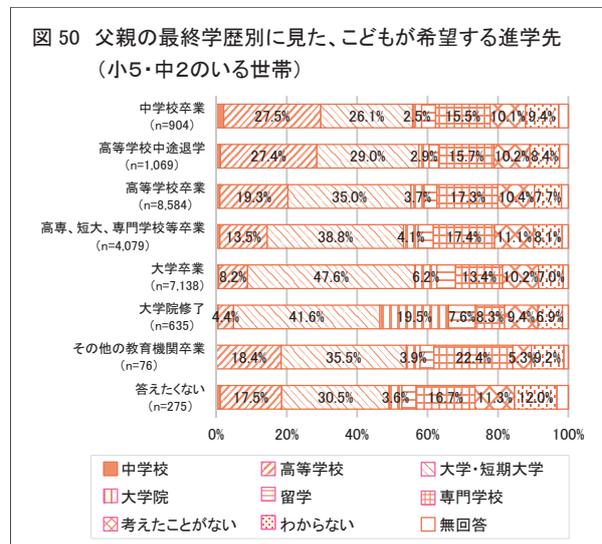
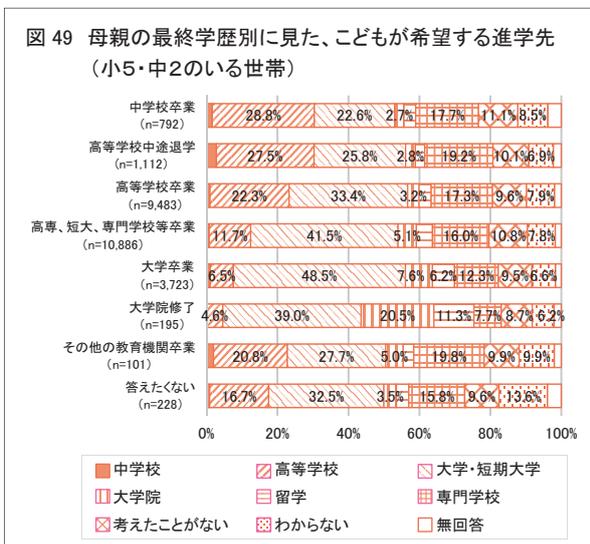
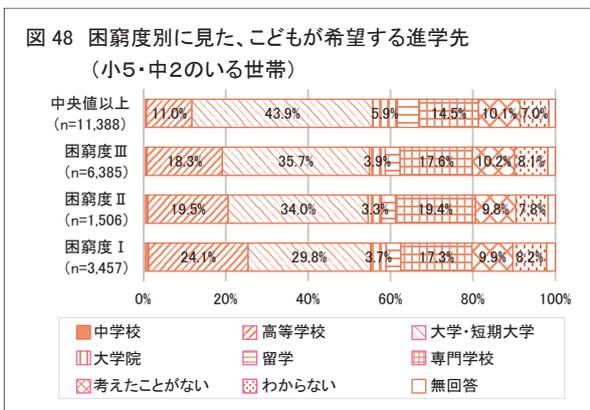
サ こどもが希望する進学先

(ア) 困窮度別

困窮度が高くなるにつれ、大学・短期大学への進学を希望する割合が低く、中学校又は高等学校を希望する割合が高くなっています。高等学校を希望する割合は中央値以上群では 11.0% であるのに対し困窮度 I 群では 24.1%、大学・短期大学を希望する割合は、中央値以上群では 43.9% であるのに対し困窮度 I 群では 29.8% となっています(図 48)。

(イ) 保護者の最終学歴別

母親、父親ともに、最終学歴が中学校卒業又は高等学校中途退学の場合、中学校又は高等学校を希望する割合が約 30% であるのに対し、母親、父親ともに、最終学歴が大学卒業の場合、中学校又は高等学校を希望する割合は 10% 未満となっています(図 49、図 50)。

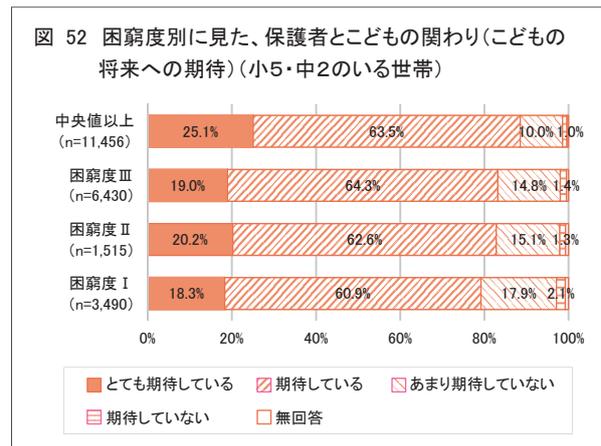
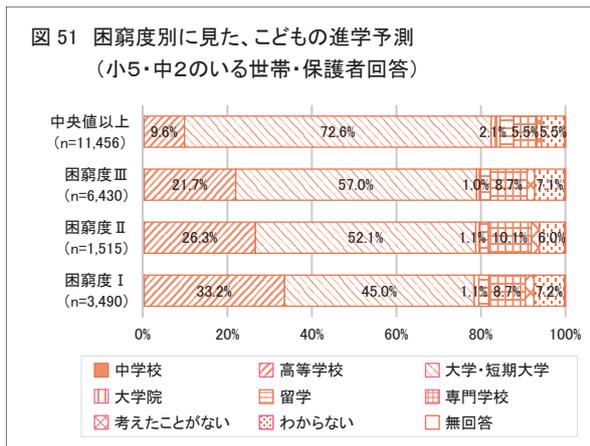


シ 困窮度別に見た保護者のこどもに対する進学予測

困窮度が高くなるにつれ、高等学校卒業までの割合が増えており、中央値以上群では 9.6%であるのに対し、困窮度 I 群では 33.2%となっています(図 51)。

ス 困窮度別に見た保護者のこどもに対する将来への期待

困窮度が高くなるにつれ、「あまり期待していない」「期待していない」の割合が増えており、中央値以上群では合計が 11.0%であるのに対し、困窮度 I 群では、20.0%となっています(図 52)



(5) ソーシャルキャピタルの欠如の状況

ア こどもが放課後に一緒に過ごす相手

(ア) 困窮度別

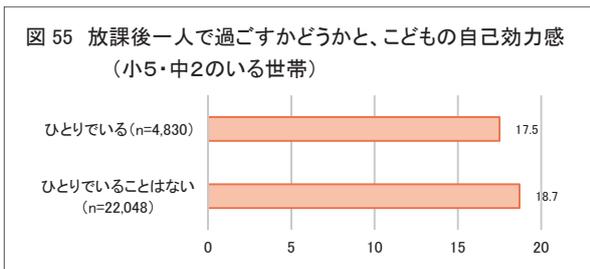
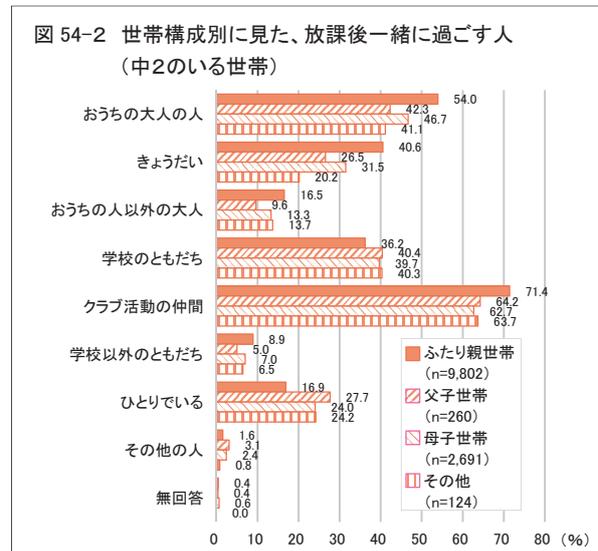
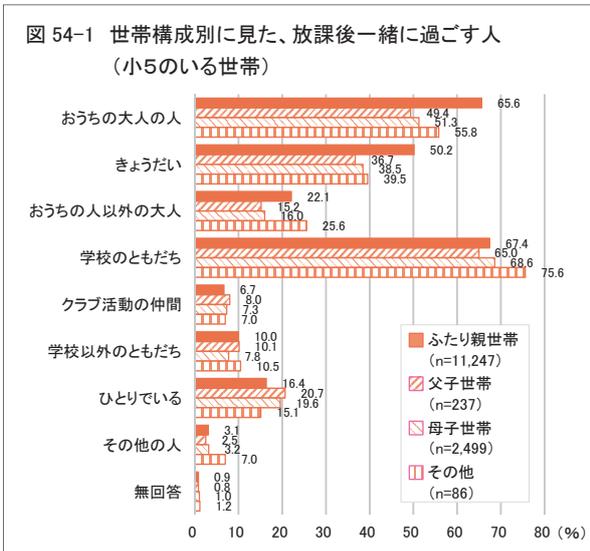
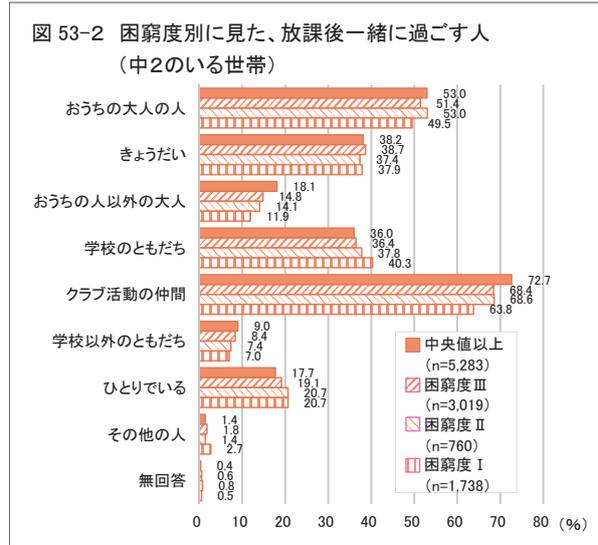
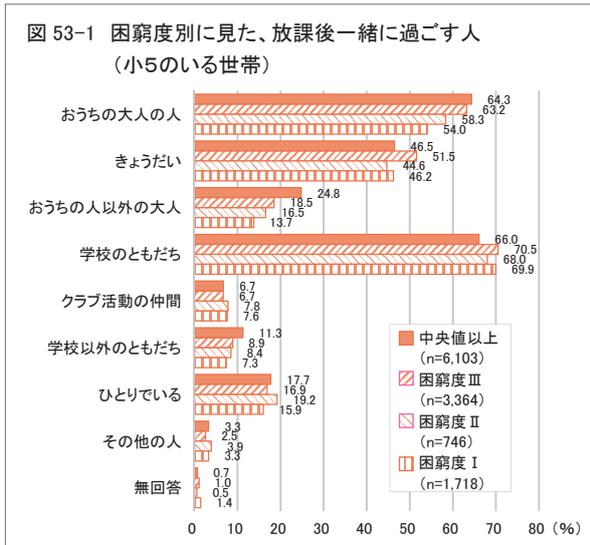
差が大きい項目を見ると、小学校5年生の場合、「おうちの大人の人」が中央値以上群では 64.3%であるのに対し困窮度 I 群では 54.0%、「おうちの人以外の大人」が中央値以上群では 24.8%であるのに対し困窮度 I 群では 13.7% (図 53-1)、中学校2年生の場合、「おうちの人以外の大人」が中央値以上群では 18.1%であるのに対し困窮度 I 群では 11.9%、「クラブ活動の仲間」が中央値以上群では 72.7%であるのに対し困窮度 I 群では 63.8% (図 53-2)となっています。

(イ) 世帯構成別

差が大きい項目を見ると、小学校5年生の場合、「おうちの大人の人」がふたり親世帯では 65.6%であるのに対し、父子世帯では 49.4%、母子世帯では 51.3%、「きょうだい」がふたり親世帯では 50.2%であるのに対し、父子世帯では 36.7%、母子世帯では 38.5% (図 54-1)、中学校2年生の場合、「おうちの大人の人」がふたり親世帯では 54.0%であるのに対し、父子世帯では 42.3%、母子世帯では 46.7%、「きょうだい」がふたり親世帯では 40.6%であるのに対し、父子世帯では 26.5%、母子世帯では 31.5%、「クラブ活動の仲間」がふたり親世帯では 71.4%であるのに対し、父子世帯では 64.2%、母子世帯では 62.7%、「ひとりである」がふたり親世帯では 16.9%であるのに対し、父子世帯では 27.7%、母子世帯では 24.0% (図 54-2)となっています。

(ウ) こどもが放課後一人で過ごすかどうかと、こどもの自己効力感

こどもが放課後一人で過ごすかどうかと、こどもの自己効力感を見ると、「ひとりである」群の方が、「ひとりであることはない」群よりも自己効力感が低くなっています(図 55)。



※「自分に自信がある」「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」「大人は信用できる」「自分の将来の夢や目標を持っている」「将来のためにも、今、頑張りたいと思う」「将来、働きたいと思う」の6項目について、それぞれ4段階で評価させ、その値を合計した得点を記載しています。得点が高いほど、自己効力感(ある状況において、必要な行動を効果的に取ることができると思えること〔可能性の認知なので、「できると思える」の逆で「できると思えない」ことも含まれる])が高いことを表します。

イ こどもが放課後に過ごす場所

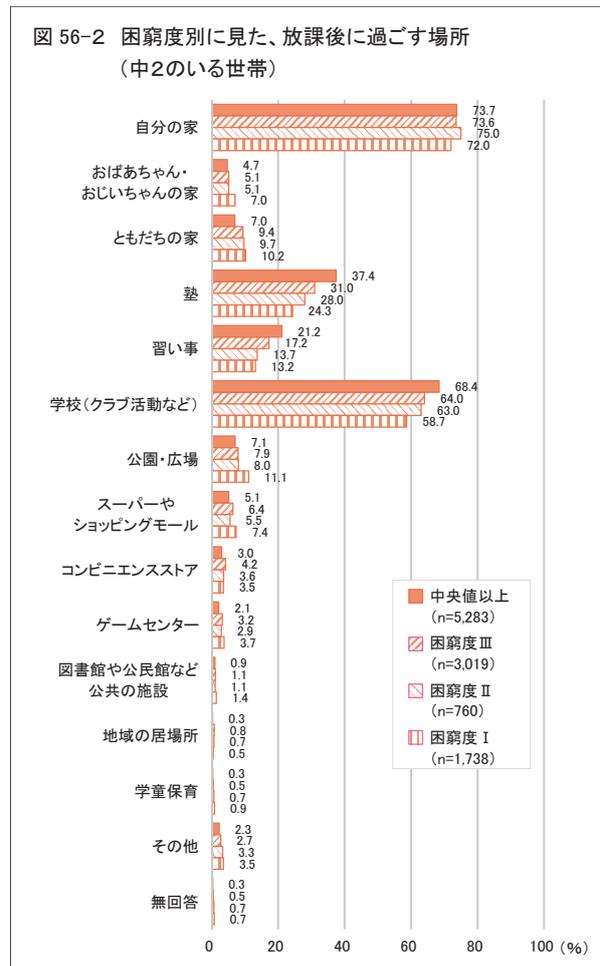
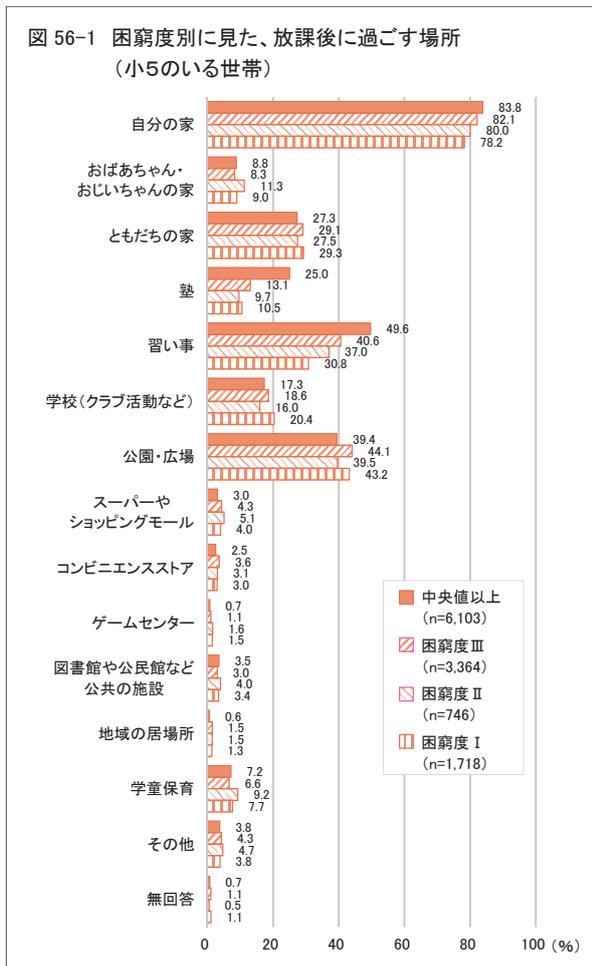
(ア) 困窮度別

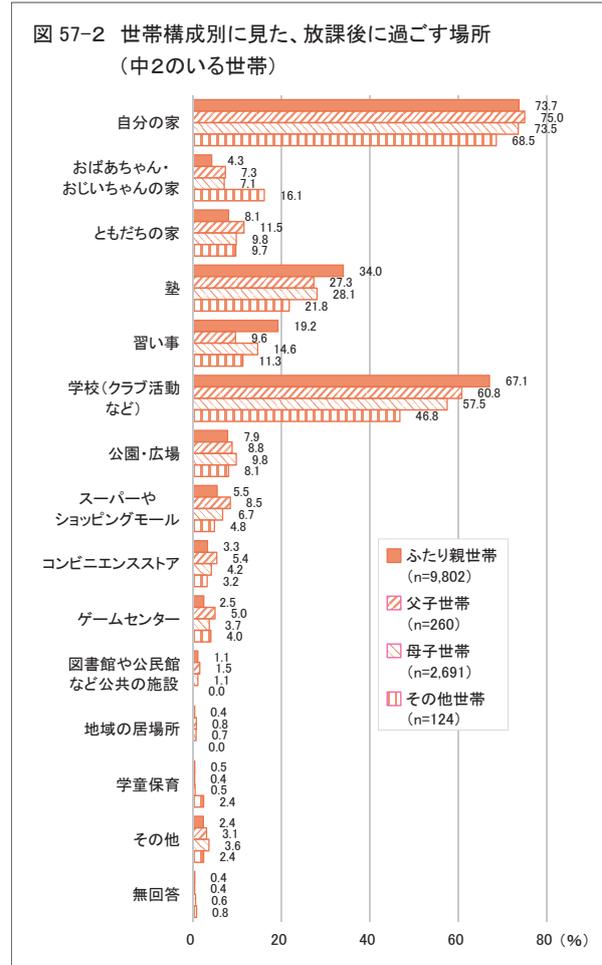
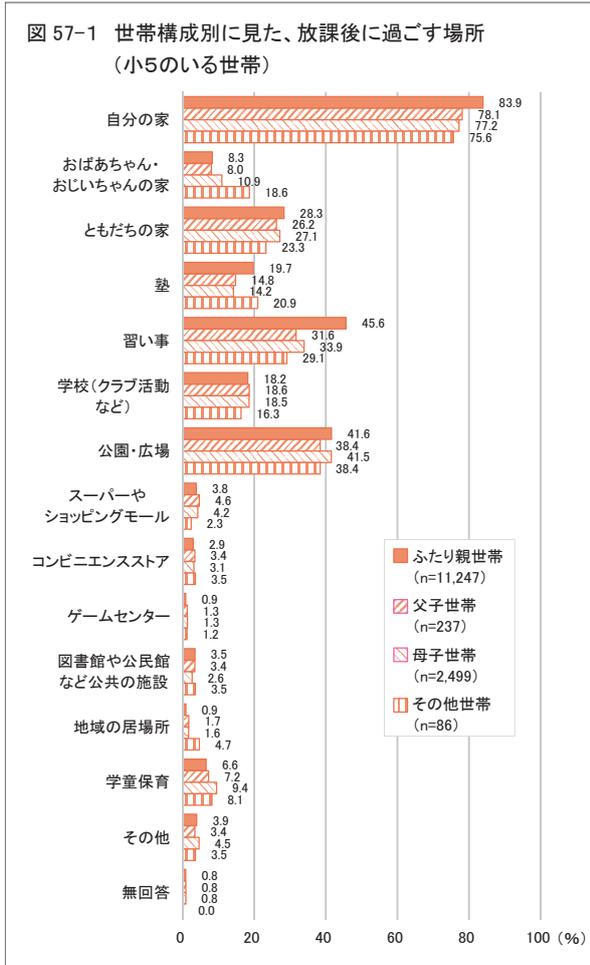
差が大きい項目を見ると、小学校5年生の場合、「塾」が中央値以上群では 25.0%であるのに対し困窮度Ⅰ群では 10.5%、「習い事」が中央値以上群では 49.6%であるのに対し困窮度Ⅰ群では 30.8%(図 56-1)、中学校2年生の場合、「塾」が中央値以上群では 37.4%であるのに対し

困窮度 I 群では 24.3%、「習い事」が中央値以上群では 21.2%であるのに対し困窮度 I 群では 13.2%、「学校(クラブ活動など)」が中央値以上群では 68.4%であるのに対し困窮度 I 群では 58.7% (図 56-2)となっています。

(イ) 世帯構成別

差が大きい項目を見ると、小学校5年生の場合、「習い事」がふたり親世帯では 45.6%であるのに対し、母子世帯では 33.9%、父子世帯では 31.6%、(図 57-1)、中学校2年生の場合、「塾」がふたり親世帯では 34.0%であるのに対し、母子世帯では 28.1%、父子世帯では 27.3%、「習い事」がふたり親世帯では 19.2%であるのに対し、母子世帯では 14.6%、父子世帯では 9.6%、「学校(クラブ活動など)」がふたり親世帯では 67.1%であるのに対し、母子世帯では 57.5%、父子世帯では 60.8% (図 57-2)となっています。





ウ 学習塾や習い事の利用状況

小学生と中学生とで大きく変わっていますが、どの利用先も困窮度が高くなるにつれて、利用している割合が低くなり、「学習塾、習い事はしていない」と回答する割合が高くなっています。差が大きい項目を見ると、小学校5年生の場合、「学習塾・進学塾」が中央値以上群では 40.0%であるのに対し困窮度 I 群では 18.7%、「絵画・音楽・習字などの習い事」が中央値以上群では 28.9%であるのに対し困窮度 I 群では 12.7%、「学習塾等、習い事はしていない」が中央値以上群では 8.7%であるのに対し困窮度 I 群では 30.8% (図 58-1)、中学校2年生の場合、「学習塾・進学塾」が中央値以上群では 63.9%であるのに対し困窮度 I 群では 44.8%、「学習塾等、習い事はしていない」が中央値以上群では 18.5%であるのに対し困窮度 I 群では 37.6%となっています (図 58-2)。